

アスファルト再生用添加剤

バイオマス品開発

ハリマ化成 G
ど

ハリマ化成グループは7日、土木研究所および日本大学との共同研究で「バイオマス系アスファルト再生用添加剤」を開発したと発表した。ロジ

ンなどの植物由来原料を使用し環境負荷を大幅に低減できるほか、少量でも劣化アスファルトを再生し耐劣化性に優れた道路インフラの持続可能性を



開発したバイオマス系アスファルト再生用添加剤

高めることが期待される。今後は開発品を使用した混合物評価や試験施工のデータ蓄積を重ねていき、社会実装を目指す。国内におけるアスファルト混合物の出荷量の70～80％が再生アスファルト混合物とされる。アスファルト再

生用添加剤は、気候条件や交通量などにより劣化して硬くなったアスファルトを回復させ、再利用可能な状態に戻す役割がある。しかし従来品は、繰り返し再生されたアスファルトが回復しづらくことが課題だった。こうしたなか今回開発したバイオマス系アスファルト再生用添加剤は、再生可能な天然資源である松から得られるロジンなどの原料を使用し、サプライチェーン全体の低炭素化が期待される。性能面では従来品の標準的性能を満たし、少添加量でも同等以上の再生効果を示す。またアスファルトの劣化を抑制する効果が期待でき、繰り返し再生にも有効という。従来品では回復が不十分な柔軟性を高めることで、

道路の長寿命化や持続可能なインフラを実現する。近年はカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みとして、非石油由来の原料を活用した各種添加剤やアスファルト代替材料の研究開発が進められている。国土交通省は道路のライフサイクル全体の低炭素化を推進し、2030年までに道路分野での二酸化炭素(CO₂)排出量を35％以上削減する(13年度比)目標を掲げ、道路インフラの長寿命化、道路建設・管理の低炭素化が不可欠。再生アスファルトにおいては、耐劣化性の向上による修繕頻度の減少やメンテナンスの最適化に加え、低炭素型材料への転換などが求められている。